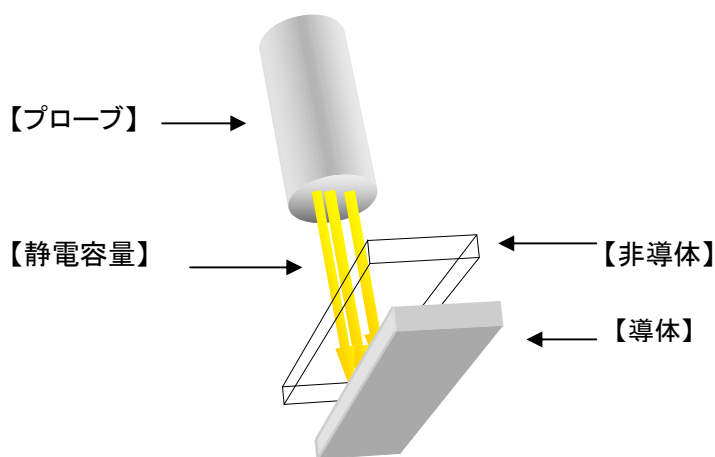


非導体の測定方法について

静電容量センサは、導体の測定対象物の所在確認・位置の測定と同じく、非導体の位置、存在検知にも有効です。導体は、プローブと導体の間に生じる静電容量の変化で測定し、非導体は、その誘電率による静電容量の変化で測定します。

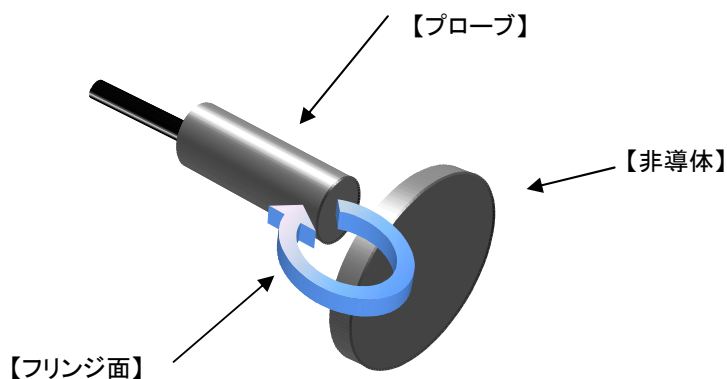
【非導体の存在の検出測定】



非導体の背後に導体のターゲットを固定します。

【非導体の位置測定】

プローブの正面に導体のターゲットを設置することが難しい場合があります。プローブ表面に対して導体がない場合、センサの電界はプローブ本体を包むように戻ってきます。この面をフリンジ面と呼びます。



測定対象物の誘電率によって、プローブに戻ってくる電界の量が変わります。この変化を利用して、非導体を測定します。

※ ご希望の測定対象物の非導体が測定できるかどうか、まずはお問い合わせ下さい。